

山口2区総支部長

平岡秀夫氏が挑む

根

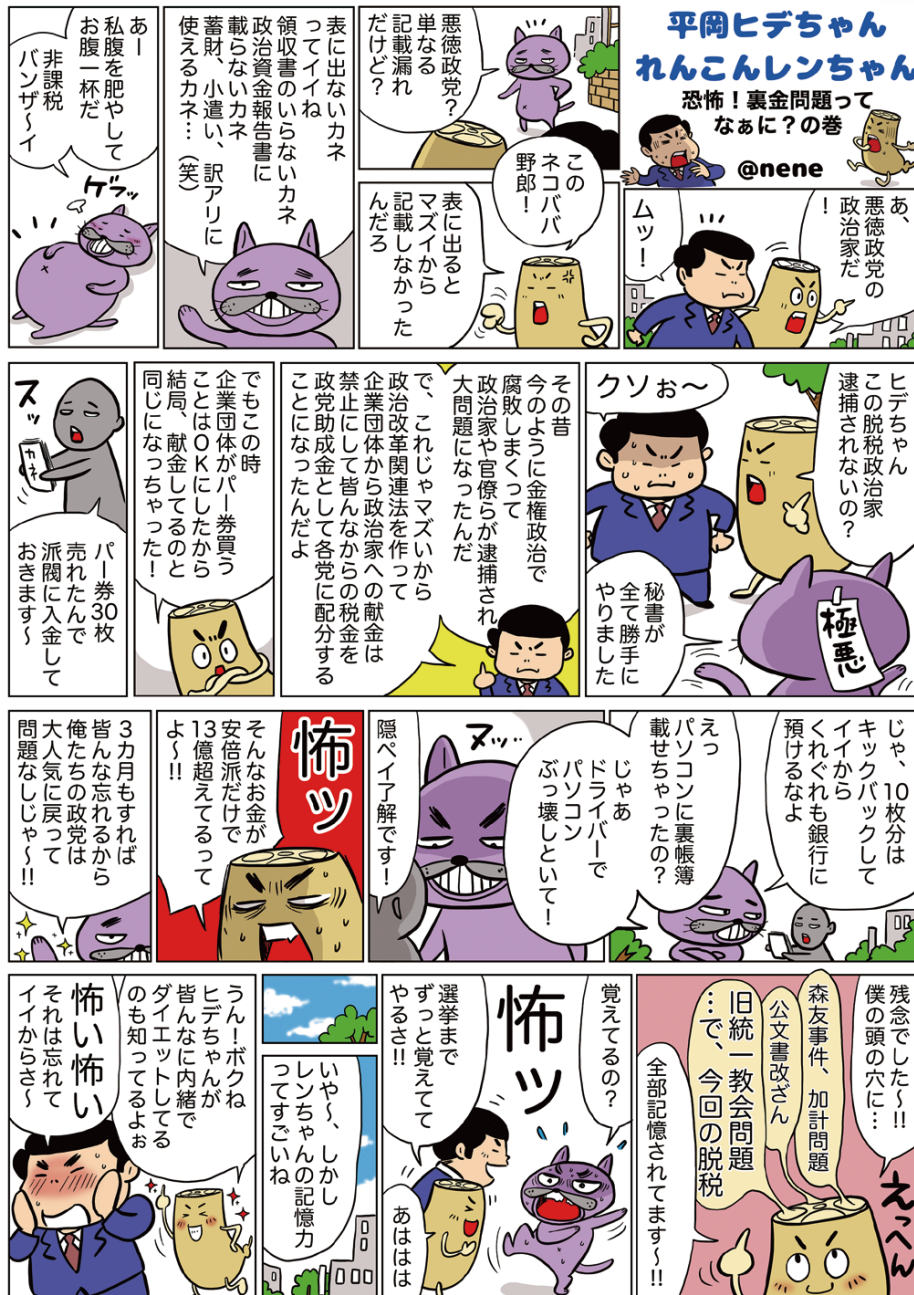
政治資金パーティを利用した

絶

!!

裏金問題

山口2区総支部長
平岡 秀夫氏



政治資金パーティとは

政治資金パーティとは、パーティ券を買ってもらうことで、その収益を自分の政治活動の活動費に充てることを目的としたイベントです。パーティの題名やプログラム内容などは決まっていないので自由です。

政治に必要な資金を集めるために寄付の外に政治資金パーティが利用される理由として挙げられるのは、一つ目として、**政治資金パーティのほうが多くお金を集めやすい**、ことがあります。政治資金パーティは政治団体が主催するものですが、政治献金では5万円を超える場合には献金者の名前等が政治資金収支報告書に載るのに対し、政治資金パーティ券の購入の場合には、20万円を超える場合に氏名などが掲載されます(政治資金規正法12条1項1号ト)。外国籍の方・企業などもパーティ券を購入することができますので、広くお金を集めることができるのです。

二つ目の理由としては、政治資金パーティは、「**券が1000枚売れても、用意する飲食物は500人程度で済ませてその分収益を上げることができる**」ということがあります。しかし、この点については、よく考えてみれば**不合理**で、それはパーティ券として購入してもらっていても、実質上は政治献金(寄付)に他ならないことを意味します。

ほかにも、政治資金パーティそのものは立食形式で開催することが多く、誰が何人来たのかについて、外部から把握することは難しいため、**政治資金収支報告書に記載されている数字と実際に集めた金額に差が生じやすく、裏金作りやすい**とも指摘されているところです。

裏金の手口と根絶の必要性

しかし、問題はそれだけに止まらなると考えられます。政治家は、派閥が開催した政治資金パーティについてパーティ券を販売するだけでなく、政治家個人が開催するパーティでもパーティ券の販売を行っています。その**販売代金を誤魔化して**政治資金収支報告書に記載していることも考えられます。とりわけ、今回自民党の派閥が開催した政治資金パーティに関して問題を起こした政治家については疑惑があります。事実、私も、私が現職の政治家であった10年位前に、そのようなことが行われていると小耳にはさんだことがありました。**このような裏金問題は、あるべき民主主義の観点からも根絶する必要があります。**

今問題となっているのは、自民党の派閥が開催した政治資金パーティに関するもので、その派閥に属する政治家が、自分のノルマを超えて販売した分について派閥からキックバックを受けたり、パーティ券収入の一部を中抜き・プールしたりするなど、いわゆる**“裏金”**を受け取っていたことです。